



森林総合研究所四国支所 公開講演会

ともに考えよう！

豪雨・急傾斜地に適した森づくりと伐出システム

- ・豪雨・急傾斜地に適した長伐期・収穫間伐による林業について議論を深める。
- ・土壌保全、高齢林、タワーヤーダの作業・コスト・路網に関する研究事例を紹介し、経済性が高く森の健全性も保つことができる森林管理システムについて考える。

概要

2011年に策定された「森林・林業基本計画」では2020年における国産材供給量3,900万m³、木材自給率50%を目指しています。高知県でも大規模国産材製材工場が稼働を開始し、木質バイオマス発電所の計画も進められるなど、木材需要の急増が見込まれ、山側にとっては、これまで蓄積してきた木材資源を有効に活用できる絶好の機会が訪れています。

こうした中、森林総合研究所四国支所では2011年より、四国の厳しい自然条件に適した人工林の管理技術を開発することを目的に、研究プロジェクト「豪雨・急傾斜地帯における低撓乱型人工林管理技術の開発」に取り組んできました。

本講演会ではプロジェクトのこれまでの研究成果をご報告するとともに、豪雨・急傾斜地に適した人工林管理を構築していくために欠かすことのできない伐出システム、路網整備、森づくりのあり方について、参加者の皆さんとともに論議を深めたいと思います。

当日は是非取材にお越しいただき、紙（誌）面、番組等でご紹介いただければ幸いです。

◎詳細は別紙チラシをご覧ください。

問い合わせなど

独立行政法人 森林総合研究所四国支所 支所長 外崎真理雄

広報担当部署：森林総合研究所四国支所 連絡調整室

Tel：088-844-1121（代） Fax：088-844-1130

Email：koho-ffpri-skk@gp.affrc.go.jp

この資料は、高知県政記者クラブへ配布しています。



Forestry and Forest Products
Research Institute